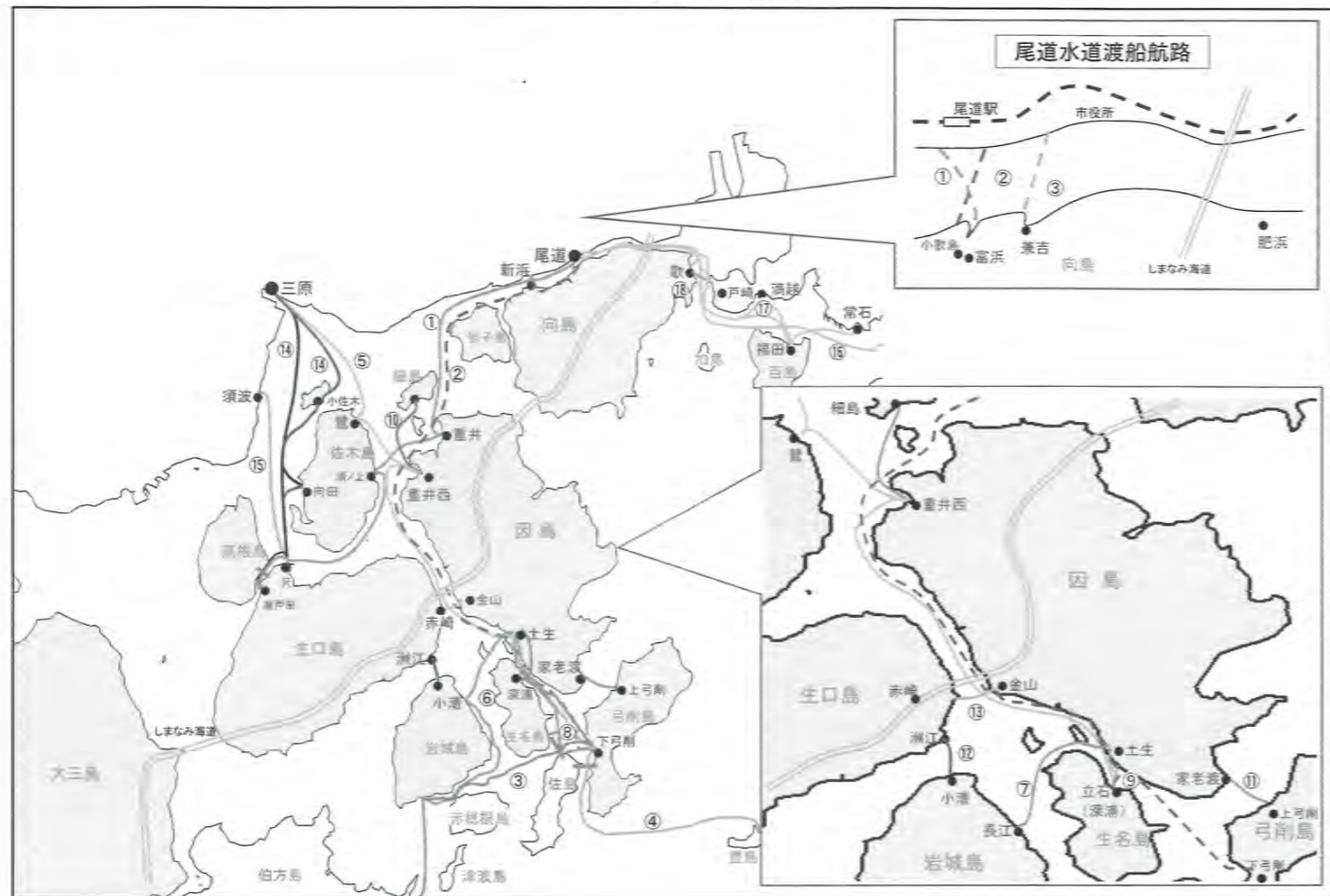


尾道広域航路図



尾道一因島・生口島(瀬戸田)間航路 (②は平成24年5月末で廃航)

- ① 駅前棧橋～新浜～重井港～佐木島(須ノ上)～沢～瀬戸田 → 瀬戸内クルージング 客船
- ② 駅前棧橋～新浜～金山港～土生港～生名島(立石)～弓削 → 瀬戸内クルージング 客船

因島一周辺諸島間航路

- ③ 土生中央～生名島(立石)～弓削～岩城島～今治 → 芸予汽船 客船
- ④ 土生中央～弓削～豊島～高井神～魚島 → 愛媛県上島町 客船
- ⑤ 土生中央～生名島(立石)～重井西～鷺～三原 → 土生商船 客船&フェリー
- ⑥ 土生中央～長江～岩城 → 岩城汽船 客船
- ⑦ 土生中央～長江 長江フェリー フェリー
- ⑧ 土生中央～佐島～生名島～下弓削 → 弓削汽船 客船 ※フェリーは廃止。
- ⑨ 土生～長崎棧橋～生名島(立石) 愛媛県上島町 フェリー
- ⑩ 重井西～細島 → 尾道市 フェリー
- ⑪ 家老渡～上弓削 → 家老渡フェリー フェリー

生口島一因島・生口島一三原区間航路

- ⑫ 洲江～小浦 → 三光汽船 フェリー
- ⑬ 赤崎～因島(金山) → 三光汽船 フェリー
- ⑭ 瀬戸田～沢～向田～(小佐木)～三原 → ほうらい汽船/マルト汽船 客船
- ⑮ 沢～須波港 → 須波航路サービス フェリー

尾道一沼隈方面間航路

- ⑯ 駅前棧橋～十四日元町～鞆 → 瀬戸内クルージング 客船&フェリー
- ⑰ 駅前棧橋～戸崎～歌～道越～百島(福田)～常石 → 備後商船 客船&フェリー
- ⑱ 向東町歌～戸崎 → 歌戸運航 フェリー

尾道水道渡船航路

- ① 駅前渡船
- ② 福本渡船(小浦渡し)
- ③ 尾道渡船(兼吉渡し)

尾道市土堂一丁目8番8号 TEL 0848(20)0400 開館時間 10時～18時 木曜・年末年始休館

尾道商業会議所記念館(第18回企画展示解説)

(2012年4月20日～2012年8月8日)

海フェスタおのみち開催記念海事都市尾道企画展

テーマ 「海と暮らす尾道の人々…(渡船の今昔)」

海と暮らす尾道の人々…渡船の今昔

尾道水道を南北に往き交う渡船のある風景は、尾道風情を醸す尾道らしい風景・情景である。往時は12もの渡し(渡船航路)が尾道と向島東西を繋いでいたが、今日では3航路が健在するのみとなった。

“渡し(船)”を歴史的な目線で見た時、最古の渡しとなるのが、土堂渡し場と向島の兼吉を繋ぐ、通称「兼吉渡し」(本渡しともいった。旧・公営渡船、現・尾道渡船)である。正確な開設時期は不明ながら、文献史料(横山吉原家文書・文化四年「覚」など)によると、寛政～文化期(1789～1817)頃に関わったという、江戸後期に遡る古い渡船である。

島の割庄屋・高田恒次郎が、「手漕ぎ船一艘に船頭を附して、無賃で渡海往來せしめた」(「備後向島岩子島史」)のが初期段階であったようだ。

有料化後は綿や麦といった農産物を代価とする時期も見られ、賃料一文銭の時代には、「一文渡し」の通称で親しまれた。

手漕ぎ船から発動機船への移行は、1917(大正11)年からである。

1825(文政8)年4月開設と、兼吉同様に江戸時代まで遡るものとして、浄土寺下と向島の西谷間を往く渡船、通称「浄土寺渡し」(ドック渡しとも称した。玉里渡船)があったが、しまなみ全通の1999(平成11)年4月、新尾道大橋開通に伴う尾道港内の渡船航路再編により、その長い歴史にピリオドを打った。同年には、向島町有井と新浜間を往來した「有井渡し」も姿を消した。

近代以降の開設で時代的に早いものは、山波と向東を結ぶ「桑

田渡し」で、1880(明治13)年8月に営業許可が出されている。こちらも2011(平成23)年に廃航の時を迎え、これにより本土側と向東側を結ぶ渡船航路は完全に消滅した。

現存しないが、明治の中頃に開設された「鳥崎渡し」は、西御所から西富浜の「海物園」(塩田を営んだ天満屋富島家の茶園)跡付近への渡しであった。鳥崎は海物園周辺の字名(地名)に因る。利用客が少なく、昭和初期に廃航されるに至った。

この鳥崎渡しを開いた福本光蔵によって開設されたのが、「福本渡船」である。土堂町、元・石崎棧橋(石崎汽船発着の棧橋)と東富浜白石間で、古くは白石南の小浦(四軒島北)へ通じていた為、「小浦渡し」とも、また「明神渡し」とも称された。

市役所西の薬師堂浜と向東の彦ノ上間の「岸元渡し」(彦ノ上渡し、後にしまなみフェリー)は、大正の中頃に始まった渡船で、向島における発動機船の最初であったという。既に廃航し、住吉浜の東側に棧橋のみを今に遺す。

現存航路は僅かなものとなったが、それでも尾道と向島を往來する人々の身近な渡し、日々の暮らしに欠かせない存在として、今日も尾道水道を往き来している。

尾道一因島(東西)間渡船一覧(東から順に)

- 桑田渡し 山波町桑田一→向東町肥浜 廃航
- 小肥浜渡し 向東町肥浜一尾崎(山波との境) 廃航
- 東渡し(ドック渡し、玉里渡船) 尾崎浄土寺下一→向東町西谷 廃航
- 岸元渡し(彦ノ上渡し) 薬師堂浜(丸上棧橋)一→向東町彦ノ上 廃航
- 兼吉渡し(一文渡し、公営渡船、尾道渡船) 土堂渡し場一→向島町兼吉
- 小浦渡し(明神渡し、福本渡船) 土堂一→向島町白石
- 駅前渡船(向島運航) 尾道駅前一→向島町富浜
- 鳥崎渡し(廿五番渡し) 向島町西富浜一西御所 廃航
- 有井渡し 向島町有井一西御所 廃航

南北ルート以外の航路

- 歌渡し(歌戸運航) 向東町歌一戸崎
- 津部田尾道間航路 津部田一岩子島一吉和一尾道(岩崎棧橋) 廃航
- 立花尾道間航路 立花一干汐一大町一尾道(向榮舎棧橋) 廃航

尾道向島今昔航路図



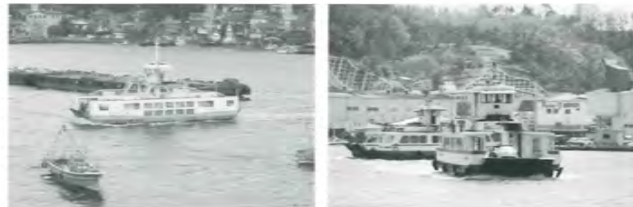
昭和13年刊『備後向島岩子島史』(菅原守編著)より

桑田渡し 山波町桑田→向東町肥浜間(廃航)



写真撮影；浦谷典功氏

岸元渡し 薬師堂浜→向東町彦ノ上間(廃航)



写真撮影；浦谷典功氏



写真撮影；赤田洋茂氏(昭和40年代)

兼吉渡し 土堂渡し場→向島町兼吉間



第10向島丸



にゅうしまなみ



第11しまなみ

写真撮影；土本寿美氏
(左列 昭和30年代)
浦谷典功氏(右列)

第十向島丸…神原造船(向東町)で建造
にゅうしまなみ…石田造船(因島三庄町)で建造

小浦渡し 土堂海岸→向島町白石間



写真撮影；浦谷典功氏

第十一小浦丸、第十二小浦丸…福本造船(向島町)で建造

駅前渡船 尾道駅前→向島町富浜間



むかいしま I、II



旧型の第十向島丸



写真撮影；土本寿美氏、浦谷典功氏

第十向島丸、むかいしま I、II…神原造船(向東町)で建造

東渡し 尾崎町浄土寺下→向東町西谷間(廃航)



有井渡し 西御所町→向島町有井間(廃航)



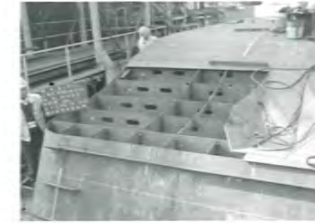
歌渡し 向東町歌→戸崎間



写真撮影；浦谷典功氏、土本寿美氏、赤田洋茂氏

歌戸丸…神原造船(向東町)で建造

渡船「歌戸丸」ができるまで



①船底に鉄板を溶接し
ブロックを造ります。



②船首部分のブロックです。



③各ブロックを溶接で繋ぎます。



④客室部分のブロックを組み
立てます。



⑤操縦室の台を取り付けます。



⑥ブロックの組み立て完了です。



⑦エンジンを取り付けます。



⑧船体に塗料を塗ります。



⑨船体が出来上がったら船を海に浮かべ、船主や関係者が集まって盛大な「進水式」を行います。
歌戸丸が完成するまで、約4カ月間を要しました。

写真提供；神原造船株式会社(向東町)